

Intensive gait training with rhythmic auditory stimulation in individuals with chronic hemiparetic stroke: a pilot randomized controlled study

慢性期片麻痺脳卒中患者におけるリズム聴覚刺激を用いた集中的な歩行訓練：パイロットランダム化対照研究

背景：運動再学習のプロトコルは、課題指向型動作、集中した注意、最適な動作の繰り返しを含むべきである。

目的：慢性期片麻痺脳卒中患者における姿勢制御および歩行パフォーマンスに対するリズム聴覚刺激を用いた集中的な歩行訓練の効果を調査する。

方法：慢性期片麻痺脳卒中患者 20 名を対象とした。リズム聴覚刺激訓練群(10 名)は、6 週間(1 日 30 分、週 5 日)リズム聴覚刺激を用いた集中的な歩行訓練を受け、対照群(10 名)は同じ期間、集中的な歩行訓練を受けた。評価として、バーグバランススケール(BBS)と脳卒中疾患特異的生活の質スケール(SS-QOL)および 2 次歩行解析システムを用いた。歩行訓練中のリズム聴覚刺激を提供するために、MIDI Cuebase 楽器デジタルインターフェースプログラムと KM プレーヤーバージョン 3.3 を使用した。

結果：リズム聴覚刺激を用いた集中的な歩行訓練は、トレーニング後のバーグバランススケール、歩行速度、ケイデンス、歩幅、歩幅、二重支持期間、および脳卒中疾患特異的生活の質スケールで、トレーニング後の対照群と比較して有意な改善をもたらした。

考察：本研究の結果は、リズム聴覚刺激を用いた集中的な歩行訓練が、慢性期片麻痺脳卒中患者のバランス能力、歩行パフォーマンス、さらには生活の質を向上させることを示唆した。

Keywords：歩行、リズム聴覚刺激、脳卒中